

安全データシート

1,1-ジフルオロエタン

改訂日: 2024-01-29 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名 : 1,1-ジフルオロエタン
CB番号 : CB3854228
CAS : 75-37-6
同義語 : 1,1-ジフルオロエタン

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途 : エッチングガス、合成中間原料
推奨されない用途 : なし

会社ID

会社名 : Chemicalbook
住所 : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話 : 400-158-6606

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

H22.3.16、政府向けGHS分類ガイダンス(H21.3版)を使用

物理化学的危険性

火薬類 分類対象外
可燃性・引火性ガス 区分1
可燃性・引火性エアゾール 分類対象外
支燃性・酸化性ガス類 区分外
高压ガス 低压液化ガス
引火性液体 分類対象外
可燃性固体 分類対象外
自己反応性化学品 分類対象外
自然発火性液体 分類対象外
自然発火性固体 分類対象外
自己発熱性化学品 分類対象外
水反応可燃性化学品 分類対象外
酸化性液体 分類対象外

酸化性固体 分類対象外

有機過氧化物 分類対象外

金属腐食性物質 分類できない

健康に対する有害性

急性毒性(経口) 分類できない

急性毒性(経皮) 分類できない

急性毒性(吸入:ガス) 区分外

急性毒性(吸入:蒸気) 分類対象外

急性毒性(吸入:粉じん) 分類対象外

急性毒性(吸入:ミスト) 分類対象外

皮膚腐食性・刺激性 分類できない

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 分類できない

呼吸器感作性 分類できない

皮膚感作性 分類できない

生殖細胞変異原性 区分外

発がん性 分類できない

生殖毒性 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 区分3(麻酔作用)

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) 分類できない

吸引性呼吸器有害性 分類対象外

環境に対する有害性

水生環境急性有害性 区分外

水生環境慢性有害性 区分外

ラベル要素

絵表示又はシンボル

GHS02	GHS04

注意喚起語

危険

危険有害性情報

極めて可燃性・引火性の高いガス

加圧ガス:熱すると爆発のおそれ

眠気やめまいのおそれ

注意書き

【安全対策】

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。

ガスの吸入を避けること。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

【応急措置】

漏洩ガス火災の場合、漏洩が安全に停止されない限り消火しないこと。

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

【保管】

日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学名又は一般名	: 1,1-ジフルオロエタン
別名	: HFC152a、FC152a
分子式(分子量)	: C ₂ H ₄ F ₂ (66.05)
CAS番号	: 75-37-6
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	: (2)-86
分類に寄与する不純物及び安定化添加	: データなし
純度又は濃度範囲	: 100%

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

水と石鹼で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

目に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状

データなし

最も重要な兆候及び症状

データなし

応急措置をする者の保護

データなし

医師に対する特別注意事項

データなし

5. 火災時の措置

消火剤

ガス漏れを止められないときは、漏洩ガスの火災は消火しない。

使ってはならない消火剤

ガス漏れを止められないときは、漏洩ガスの火災は消火しない。

特有の危険有害性

加熱により容器が爆発するおそれがある。

空気と爆発性混合気を形成する。

火炎に包まれたボンベは、安全弁から可燃性ガスの放出のおそれがある。

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

ガス漏れを止められないときは、漏洩ガスの火災は消火しない。

容器が熱に晒されているときは、移動させない。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護

適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

全ての着火源を取り除く。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立入りを禁止する。

風上に留まる。

低地から離れる。

ガスが拡散するまでその区域を立入禁止とする。

密閉された場所は換気する。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

回収・中和

漏洩物を安全に燃焼させる方法を考える。

封じ込め及び浄化方法・機材

危険でなければ漏れを止める。

可能ならば、漏洩している容器を回転させ、液体でなく気体が放出するようにする。

二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

ガスが拡散するまでその場所を隔離する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。

ガスの吸入を避けること。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

接触回避

データなし

保管

技術的対策

高圧ガス法の規制に従う。

混触危険物質

データなし

保管条件

容器を密閉して冷乾所にて保存すること。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から離して保管すること。-禁煙。

日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。

施錠して保管すること。

容器包装材料

データなし

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定 (2009年度)

許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

日本産衛学会

未設定 (2009年度)

ACGIH

未設定 (2009年度)

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

作業場には防爆タイプの全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸器の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用すること。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状 気体

色 無色

臭い 微臭

pH データなし

-117℃ : Chapman (2009)

-24.7℃ : Ullmanns(E) (6th, 2003)

<-50℃ (開放式) : SIDS (2009)

455℃ : GESTIS (access on Jul.. 2009)

データなし

4~18.5vol.% : GESTIS (access on Jul.. 2009)

513.4 kPa (20℃) : Ullmanns(E) (6th, 2003)

2.28 : Sax (11th, 2004)

データなし

2.3 (ガス) : Weiss (2nd, 1986) 0.95 (液体) : Weiss (2nd, 1986) 0.668~1.593 g/cm³ : 化工物性定数

(1995)

水 : 3200mg/L (21℃) (実測値) : SRC (access on Aug.. 2009)

log P = 0.75 (実測値) : SRC (access on Aug.. 2009)

データなし

0.078~3.492mPa·s (液体) : 化工物性定数 (1995) 0.078~3.501mPa·s (気体) : 化工物性定数 (1995)

データなし

データなし

データなし

融点・凝固点

-117℃ : Chapman (2009)

沸点、初留点及び沸騰範囲

-24.7℃ : Ullmanns(E) (6th, 2003)

引火点

<-50℃ (開放式) : SIDS (2009)

自然発火温度

455℃ : GESTIS (access on Jul.. 2009)

燃焼性(固体、ガス)

データなし

爆発範囲

4~18.5vol.% : GESTIS (access on Jul.. 2009)

蒸気圧

513.4 kPa (20℃) : Ullmanns(E) (6th, 2003)

蒸気密度

2.28 : Sax (11th, 2004)

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

比重(密度)

2.3 (ガス) : Weiss (2nd, 1986) 0.95 (液体) : Weiss (2nd, 1986) 0.668~1.593 g/cm³ : 化工物性定数 (1995)

溶解度

水 : 3200mg/L (21℃) (実測値) : SRC (access on Aug.. 2009)

オクタノール・水分配係数

log P = 0.75 (実測値) : SRC (access on Aug.. 2009)

分解温度

データなし

粘度

0.078~3.492mPa·s (液体) : 化工物性定数 (1995) 0.078~3.501mPa·s (気体) : 化工物性定数 (1995)

粉じん爆発下限濃度

データなし

最小発火エネルギー

データなし

体積抵抗率(導電率)

データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる

危険有害反応可能性

データなし

避けるべき条件

データなし

混触危険物質

データなし

危険有害な分解生成物

データなし

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットに1500 mg/kgまでの投与量で死亡はなく、おおよその致死量(ALD)は1500 mg/kg以上と推定されている(SIDS (2006))が、区分を特定できないので分類できない。

経皮

データなし

吸入

吸入(ガス): ラットを用いた4時間吸入ばく露試験において319000 ppm以下の濃度では死亡はなく、383000 ppmでは1/6例、437500 ppmで2/6例がそれぞれ死亡し、おおよその致死濃度(ALC)は383000 ppmと推定されている(SIDS (2006))ことに基づき、区分外とした。

吸入(蒸気): GHS定義におけるガスである。

吸入(粉じん、ミスト): GHS定義におけるガスである。

皮膚腐食性・刺激性

蒸気が皮膚を刺激する(HSDB (2003))とあるがそれ以上の記載はなく、データ不足のため「分類できない」とした。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

蒸気が眼を刺激する(HSDB (2003))とあるがそれ以上の記載はなく、データ不足のため「分類できない」とした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性:データなし

皮膚感作性:データなし

生殖細胞変異原性

ラットの吸入投与による骨髄細胞用いた小核試験(体細胞in vivo変異原性試験)(OECD TG 474)で陰性の結果(SIDS (2006))にもとづき区分外とした。なお、in vitro変異原性としてAmes試験(OECD TG 471、GLP準拠)で陰性、ヒトリンパ球を用いる染色体異常試験(OECD TG 473)で弱陽性の報告がある(SIDS (2006)、PATTY (5th, 2001))。

発がん性

ラットを用いた2年間の吸入ばく露による試験でばく露に関連する腫瘍の発生は雌雄とも見られず、本物質はラットに対し発がん性を有しないと結論されている(SIDS (2006))が、動物一種のみの試験結果のためデータ不足により「分類できない」とした。

生殖毒性

ラットの器官形成期に吸入ばく露した試験で、本物質による母動物の毒性及び発生毒性は何全く認められなかった(SIDS (2006))との報告があるが、親動物の性機能及び生殖能に対する影響に関してはデータがないため分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性

QSARによる推算値が、魚類の96時間LC50 = 733 mg/L、甲殻類の48時間EC50=720 mg/L、藻類の96時間EC50=419 mg/L (いずれもSIDS, 2007)であり、これらはQSARによる推定値であるが、SIDSで引用されておりこの推定値は信頼してよいこと、実測値入手は困難であることから区分外とした。

水生環境慢性有害性

難水溶性ではなく(水溶解度:3200 mg/L (PHYSROP Database, 2009))、急性毒性区分外であることから、区分外とした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

IMOの規定に従う。

UN No.

1030

Proper Shipping Name.

1,1-DIFLUOROETHANE

Class

2.1

Packing Group

-

Marine Pollutant

Not Applicable

航空規制情報

ICAO・IATAの規定に従う。

UN No.

1030

Proper Shipping Name.

1,1-Difluoroethane

Class

2.1

Packing Group

-

国内規制

陸上規制情報

高圧ガス保安法の規定に従う。

海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

国連番号

1030

品名

1,1-ジフルオロエタン

クラス

2.1

容器等級

-

海洋汚染物質

非該当

航空規制情報

航空法の規定に従う。

国連番号

1030

品名

1,1-ジフルオロエタン

クラス

2.1

等級

-

特別安全対策

移送時にイエローカードの保持が必要。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号

115

15. 適用法令

労働安全衛生法

危険物・可燃性のガス(施行令別表第1第5号)

船舶安全法

高压ガス(危規則第3条危険物告示別表第1)

航空法

高压ガス(施行規則第194条危険物告示別表第1)

港則法

危険物・高压ガス(法第21条2、則第12条、昭和54告示547別表二イ)

16. その他の情報

略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA: 国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

参考文献

- 【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>
- 【2】化学物質審査規制法(化審法)<https://www.env.go.jp>
- 【3】化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) <https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【4】NITE化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)<https://www.nite.go.jp/>
- 【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en
- 【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。